

<熊本支部例会事前抄録>

日時：2023年6月27日（火）19時30分～

会場：添島歯科クリニック

-一般講演抄録 1-

全顎治療における顎関節診査の重要性について

三村彰吾 共愛歯科医院 〒861-2231 熊本県上益城郡益城町安永7 2 2 - 4

■抄録

私は、以前全顎治療を行った後、5年後に開口障害が生じ、その後約2年後に改善した症例の経験がある。それ以来、全顎的な治療を行なう際、MRI等を用い顎関節の状態を把握し治療をすることになっている。

今回、その苦労した症例の概略と全顎的な治療の2症例を提示し私の考えを述べさせていただきます。

1症例目の患者は66歳の女性、初診日は2013年2月。主訴は下顎臼歯部が欠損のため咀嚼困難とことだった。欠損部にインプラントを埋入後、バーティカルストップを回復して、顎頭安定位を求めた。その後、顎関節症状が消失したため、最終補綴に移行した。現在約8年で良好である。

2症例目の患者は、62歳女性、初診日は2015年9月4日。主訴は臼歯部欠損部の補綴希望で来院した。診査診断後、矯正治療及びインプラントを用いた全顎治療を行った。経過は約3年で現在良好である。